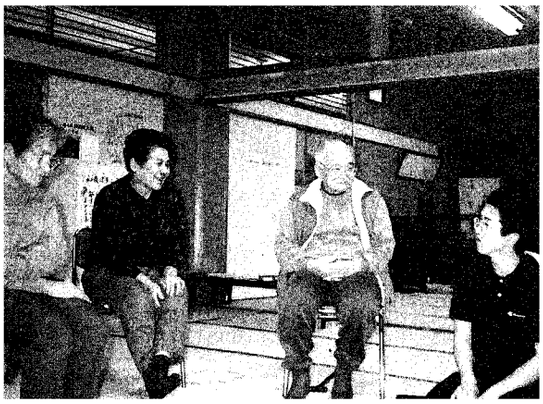
市民が語る都留市の健康 Ⅸ

リハビリ教室参加者の声

市では、脳卒中等後遺症で日常生活に何らかの支障がある方々が単なる機能訓練にとどまらず、家庭や地域社会で満足の得られる役割や生きがいを持つことを目的にリハビリ教室を開催しています。今回は、リハビリ教室「一ダースの会」の方に語っていただきました。



参加者のくちコミで参加！

保健婦―この教室に参加するきっかけは何ですか。

参加者―入院している病院の先生に勧められました。退院したら病院の訓練の様にはいかないし、少しでも良くなるのなら…と思って参加しました。

参加者―保健婦さんに勧められました。今は、送迎をしてくれるので参加できますが、送迎がなかったら参加したくても出来なかったと思います。

参加者―この教室に参加している人から「楽しいから一緒に行こうよ」と誘われました。

参加者―私も近所の人が参加していて、「家から出るだけでも訓練になるから」と言われ参加することにしました。

教室に来るのが楽しみ…

保健婦―教室に参加してどうですか。

参加者―教室に来るのが楽しみです。革細工等、家では出来ない事を体験できるのでうれしいです。

参加者―教室で作成した物を孫にあげたりして喜んでもらえると、次も頑張ろうと思います。

参加者―生活に張りが出ました。普段は家の近くの散歩程度しか出来ませんが教室の中で様々な所に行けるのが楽しみです。

参加者―家族は私がいろいろな物を作ることに驚いています。少し頼りにされる様になりました。

都留市は住みやすい？

保健婦―都留市で生活していて感じる事はありますか。

参加者―教室をやっている所は段差が大きかったり、スロープが急だったりして動くのに大変な思いをすることがあります。

参加者―公共の施設の中に障害者用のトイレが少ないと思います。あっても入口のドアが重かったり自動的に閉まってきたり、非常に使いにくいと感じます。

参加者―他の市には、いつでも障害者が利用できる施設がある様ですが、市内にもその様な施設があれば良いと思います。

現在、リハビリ教室は「一ダースの会」の他に同窓会「木曜会」も自主的な活動をしています。脳卒中等、後遺症などで家で療養されている方で教室参加の希望のある方は、見学に来てみませんか。

12月1日は世界エイズデー

エイズは一九八一年にアメリカで初めて症例が報告され、その後増加の一途をたどり、一九九五年六月末現在世界では約一一七万人の患者が報告されています。WHOの推計では、患者は四五〇万人感染者は二〇〇〇万人とされており、エイズのまん延は世界的に深刻な問題となっています。

こうした中で、WHOは十一月一日を世界エイズデーと定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱しています。

日本では、本年六月末まで報告された患者は九九二人、感染者は三三五九人ですが、最近のエイズウイルス感染の特徴は、

①平成六年の一年間の報告患者、感染者は前年と比べて大幅な増加を示している。

②患者となって初めて報告されるケースが増えており、感染者の潜在化が懸念されている。

③異性間性行為によるものが主たる感染路となっている。

④特に女性については二十歳代の若い世代に感染が集中している。

⑤感染が全国的に拡がっている。

など依然として予断を許せない状況に有ります。

エイズの克服に向けて

①予防しないといつでも、だれでも感染する可能性が有る。

②しかし感染力は弱く、感染経路が限られているので日常生活では感染しない。

③したがって、エイズを極端に恐れる必要はなく、患者、感染者に対する理解を持つ。

④エイズに関する相談や、抗体検査は、最寄りの保健所で匿名でかつ必要と認められれば無料で受けられる。

等の正しい知識を持ちましょう。

無料

交通事故ご相談

●電話のご相談もお受けします

☎0552-28-8335（直通）

相談日　月曜日から金曜日午前9時30分～12時
午後1時～4時40分（祝祭日を除く）

◎専門の相談員が親身になってご相談に応じます。

◎弁護士相談日：毎月第3木曜日午後1時～4時

社団法人
日本損害保険協会 甲府自動車保険請求相談センター

甲府市丸の内3－1－6住友生命山梨ビル3階甲府調査事務所内☎0552-28-8810